

苦工同窓会 関東六華会

会報 第12号 2015.4.25

発行責任者 石堂 鉄雄
編集委員 一昭 春夫
祥英 武政
馬井 櫻瀨

皆の参加で

「関東六華会」を より身近に

関東六華会副会長 駒米 隆

最近、私にとって同窓会に集う人たちが、大きな拠り所となっております。同窓会の縁で交友が増え、その交友が新しい縁を生んでおります。

出合いは一瞬、しかし縁は一生です。

私は関東六華会の幹事になる前、何度か総会へ出席した記憶があります。入社二、三年目に初めて出席した際、同じテーブルにいた電力中研の先輩から「お前の会社の製品は使っているよ。一度挨拶に来い」と言われました。私は研究職で電力業界とはお付き合いが無かったのと、怖そうな先輩でしたので挨拶には行きませんでした。若かった私へ色々なことを教えたいという先輩の思いやりに気が付き



駒米副会長(右端)と同期の仲間(電気S36卒) 左から北館、井齋、松田 手前は苦西高OB 歌手SACHIさん

ませんでした。その後何度か総会へ出席しましたが、その中で色々な人脈が生まれました。そして今でも続いている方が大勢います。先輩、仲間は有り難いものと痛感し、同窓会は歳をとるほど大切な交流の場だと思いました。同窓会は人と人の掛け橋です。

私は在学中、野球などの応援にも行ったことはないし、思い出が少ない、寂しい男でした。卒業してからも先輩や同級生との交流はあまりありませんでした。そんな時に「お前の学校は苦小牧」だから

と紙パ業界の技術担当になり、業界大手の王子製紙に出張する機会が増え、今回叙勲を戴いた名越晴男君に再会しました。王子製紙には苦工出身者が多く、色々助けて頂きました。また雪印では、後に幹事に推薦される縁になるとは思わなかった、坂本前会長と知り合いました。関東六華会の中で大先輩の川上元会長とも縁が出来ました。昨年の総会で大先輩である長谷川さんから「君はY社だったよね」と声を掛けられ恐縮しました。色々な方と話が弾み、同窓会での交流の大切

さを感じました。出合いは一瞬ですが、縁は一生続くんですね。

幹事になって気が付いたのは、他の学年・クラスは良く集まっている話を聞き、それにひかえ私の仲間は、卒業後半世紀一度も集まっていないことでした。まず住所録を作成し、三年前初めて関東一円の仲間十数人が集まりました。半世紀振りの再会でした。それ以降、毎年集まるとともに、北海道の仲間との交流も増えました。

若いころは会社で年代に沿った話題で盛り上がりました。「結婚した」、「子供が生まれた」、「幼稚園・・・」さらに「子供が結婚」、「孫が生まれた」と話題がどんどん変わっていき



石堂会長 坂本前会長

定年になって思うのですが、会社や地域での付き合いはありますが、最近は一関東六華会」が大切な集まり、交流の場になりました。特に三年間苦楽を共にしたクラス仲間と会うと学生時代にワープし、繋がりが強いことに気が付きました。松田君、井齋君、北館君ら同期に幹事を受けて頂きました。

一昨年、北海道の友人にも声を掛け札幌で「クラス会」を開催し、昨年も開催できました。昨年十一月には北海道から二人が東京の「クラス会」に来てくれました。「クラス会」では思い出話が尽きません。私はこのような熱気あふれた交友がさらに深められるのは同窓会だと思えます。また若い方の参加が少ないです。それに参加されていない学年、クラスが多くあります。ところが結構同窓会とは別に同期、クラスで集まっています。近くにおられる同級生や卒業生に、ひと声を掛けて、「関東六華会」の集まりにお誘いしたいものです。昨年、会員相互の情報やトピックスなどの新しい交流の場として、ホームページを開設できました。徐々にアクセスして戴ける方が増えてきました。しかしHPを維持、管理していくにはエネルギーが必要で、多くの会員の参加と熱意、協力、情報提供が必要です。ぜひ皆で盛り上げ「関東六華会」の交流サイトとして発展させたいものです。なんとって「継続は力なり」ですから。「関東六華会」の総会、イベント、情報提供して参りますので、会員の皆さんの参加をお待ちしています。同窓会、HPを通じて交流の輪を広げましょう。心と心を同窓会の糸で結びましょう。会員の皆さん待っています。

苦工同窓会「関東六華会」

平成27年度

総会・懇親会開催のご案内

開催日時: 6月20日(土)
午前11時30分開始
(午前11時受付開始)

開催会場: 銀座ライオン七丁目店 6階
銀座クラシックホール

苦工生時代にタイムスリップ!
あなたの青春がここにある。

関東六華会ホームページ

<http://rokkakai.web.fc2.com/>

関東六華会の活躍に敬意と感謝

苦小牧工業高等学校同窓会

会長 田中 稔

「関東六華会」の石堂会長はじめ皆様方には、同窓会はもとより、在校生がスポーツやクラブ活動



等で母校を代表しての上京の折には常々大変お世話になっておりますことにつき紙上を借りてお礼を申し上げます。

すでにご案内のとおり、私は昨年五月三日の平成二六年度同窓会定期総会で、伝統ある苦工同窓会の第九代会長に就任してはや九ヶ月が経過いたしました。この度関東六華会の馬淵広報担当幹事から、近く発行する会報一二号に寄稿するようにとのご依頼がありました。「テーマは自由」とのご指示でしたので思いのまま書かせていただきますので、ご笑読いただければ幸甚に存じます。

昨年の六月二一日、関東六華会定期総会が銀座ライオン七丁目店で開催されました際、紺屋幹事長とともに参加いたしました。石堂会長はじめ先輩役員や若い会員たちによる同窓会組織としての固い連携を感じまして、あらためて卒業生同志の交流の場の機能を長期に果たしている関東六華会の歴史とご尽力に深甚なる敬意と感謝を感じたところであります。私にとりまして各年代の約一〇〇名の同窓生とお逢い出来、皆様のお話から中央上場企業の役員になった多くの先輩がおられる

等、同窓生として誇らしいお話などを伺う貴重な機会となりました。加えて、創立九一年二六〇〇有余名の卒業生の中から多くの同窓生が関東でも各技術分野で活躍していることの再確認にもなりました。

僭越ながら私のことを知っていたく折角の機会なので、自己紹介を兼ねて書かせていただきますと、私は日高線の富川から沙流川の上流にある平取町で生まれ、小学生の頃は田圃の中の小道が通学路でした。

ある日の下校時に友達と歩いていると、赤白の棒と三脚の上に機械をのせ作業している五、六名のおじさん達に出会います。「おじさん何しているの？」と聞くと、「堤防のない河川が秋になると洪水になるので、田畑を守るための堤防を作るための測量をしているのだ」と話してくれました。

この記憶が中学生三年で将来の進路を決める時、裕福でない家庭の事情と共に「測量」や「土木設計」を教える母校苦小牧工業高等学校を受験先に決めることに繋がりました。昭和三年卒業時一八歳だった若者もいまや七五歳の後期高齢者です。

長い人生でしたが、私と家内が一番嬉しかった事は平成十五年「黄綬褒章」をいただいた際、皇居春秋の間において天皇陛下から頂いた「多量事業に従事



本部役員を紹介する田中新会長(三石副会長、紺屋幹事長、工藤前副会長)



本部正副会長と共に(竹田、早坂、田中会長、三石副会長、松田)

し斯業(その道二途)の発展に尽力した」との言葉でした。

母校で学んだことを誇りに思う瞬間でありました。人生の杖となってくれた母校にいつも感謝しております。私同様「関東六華会」会員お一人お一人の皆様に母校に対する深い想いとお有りと思います。何かの機会にお聞きしたいものです。

話がまとまらず誠に恐縮な文章になりましたが、「関東六華会」の皆様それぞれの人生のご活躍に敬意を表しますとともに末永いご健勝を祈るものです。



篠原、飯島アツシ、工藤親子



昭和43年卒組の皆さん



昭43年卒青雲寮仲間と福澤(鈴木正、橋本、福澤、首藤)

昭和39年以前卒業者

苦工 関東六華会



上段左から：藤谷(土S39)鎌田(土S39)伊東(機S36)松田(電S36)塩田(建S31)櫻井(通S38)井齋(電S36)中本(電S39) 2列目左から：長谷川(通S31)竹田(土S36)吉田(電S39)阿部(機S36)水上(通S36)早坂(土S35)工藤(電S31)北館(電S36)熊谷(電S39)鈴木(電S17)吉田(建S39)伊藤捷(電S38)武田紀(電S35)岩見田(工化S30)鈴木(電S38) 前列左から：坂本(電S31)工藤(土S43)川上(工化S28)田中本部長(土S33)石堂会長(土S39)駒米副会長(電S36)三石本副会長(電S49)紺屋本副幹事長(機S36)伊藤(電S14)馬淵(電S39)

昭和40年以降卒業者



上段左から：武田(土S47)渡辺(電S44)鈴木(機S43)松崎(土S43)橋本(電子S43)杉本(電子S63)野本(機S43)飯島(土H15)大澤(電S43)門田(電子S45)山本(電S43)岩田(苦西高 歌手)加賀谷(苦小牧市東京事務所所長)南部(建S41)福澤(機S45)山本(土S43)山野(機S39) 2段目左から：三橋(工化S41)首藤(電S43)野本(電S44)小野寺(電S45)瀬谷(機S50)日高(機S59)山際(電S41)松原(土S43)菅原(機S45)松平(機S43)齊藤(苦工専副支部長)佐々木(機S45)松原(苦工専副支部長) 前列左から：金本(電子S45)工藤前本副会長(土S43)櫻井(工化S43)篠原(土S43)田中本部長(土S33)石堂会長(土S39)駒米副会長(電S36)三石本副会長(電S49)紺屋本副幹事長(機S36)遠藤(苦西高会長)杉谷(苦西高幹事)



紺屋本副幹事長、伊東、藤谷、鎌田、山野



日高、杉本



校歌斉唱



議案説明に聞き入る参加者



校歌斉唱



第58回苦小牧港祭りフォトコンテスト金賞受賞作品「踊る人気もん」

ふるさと通信

苦小牧は「いま」第3信

野辺 義治 (機械50回)

関東六華会の同窓会の皆様お元気にお過ごしでしょうか。「ちよーす」と言う返事が聞こえそうな気がします。苦小牧は最近やっと春が近づいている事が感じられるような天候です。つい二週間前まではぼた雪が降り除雪にあけられていました。以前のようにほうきで掃いて終了ではなく、温暖化のせいか内地地方と同じようなぼた雪が降ります。

では苦小牧の情報を何件か記載してみたいと思います。この原稿依頼は三回目です。今回はですが、今回のテーマは昔ながら現

在も存在しているもの、最近変化があるものを選択してみました。

八月といえ「港祭り」ですが、今年で五九回目が開催されました。昔、錦町の通りを歩きながら見物した、露天、お化け屋敷等の記憶があります。



第四十九回スケート祭りのフォトコンテスト金賞受賞作品「幸せ」

現在は苦工旧校舎、国道を挟んで反対側にイベントが行える広場で開催されています。「胸躍る まつり楽しむ 笑顔の輪」をテーマに約三十六万人が楽しみました。

二月、苦小牧のシンボルは「スケート」です。四十九回目のスケート祭りが行われ約五万人が「しばれ焼き」をほおばりました。苦小牧駅が少し変わろうとしています。

前は駅の前後には丸井デパート、長崎屋、イトウヨウカドウと賑わいを見せたデパートがありました。現在は全て撤退し跡地の北出口側にはパチンコ店、南出口側には立派な福祉施設（設立：佐藤病院）が建ち、テナント棟一階にCOCOTOMA（ココトマ）がオープンし、観光案内・読書などがくつろげるスペースや東胆振の地場産品を中心としたメニューを楽しむカフェなどが並びます。今後、新たな賑わいの場となりそうです。

原稿字数に制限がありますのでこのへんで失礼いたします。

皆様のご健康をお祈り申し上げます。



POWER STAFF COMMUNICATIONS

「ICT」技術で人と人をつなぐ。

PSCは情報開示NO.1のICT企業を目指しています。

それは「お客様に真摯に向かい合い、共に考え抜く」中にこそ、人と人をつなぐ「コミュニケーション」「信頼」が必要だからです。



ワンストップ・ソリューション ITサービスをもっとシンプルに提供したい



多様な雇用を生み出しています!

当社ではIT技術の未経験者からベテラン技術者まで、様々なフィールドで活躍できる技術領域・職種がございます。詳しくは当社ホームページでご確認ください。

<http://www.psc-inc.co.jp/recruit/index.html>

- 新卒採用 大学院・大学・専門学校卒業予定の方
- IT未経験者採用 IT20歳代でエンジニアを目指す方
- IT経験者中途採用 設計構築・運用保守業務経験者
- ベテラン採用 IT業界で15年以上の経験がある方

株式会社ピーエスシー 東京都港区芝公園2-2-18 オーク芝公園ビル

【事業内容】 ITサービス事業

【創業】 1996年

【売上高】 88億6000万円 (2014年9月)

【社員数】 531名 (2014年10月)

【連絡先】 経営管理部 (Free Dial 0120-120-637)

青雲寮

寮生活の思い出

首藤 真史 (電気43回)

昭和四三年卒(関東在住)の、機械科鈴木正夫(北見市の常呂出身)・建築科鎌田洋一(羽幌町出身)・電子科橋本拓男(鹿追町出身)・電気科首藤真史(むかわ町穂別出身)の四名は実家が遠方のため通学が出来ず三年間の寮生活(青雲寮)をおくった仲間です。



43年卒青雲寮寮生の関東六華会会員
後列左から首藤真史(電気) 橋本拓男(電子)
前列左から鎌田洋一(建築) 鈴木正夫(機械)

今回十二月二十日、上野の「いろは横丁」と言う居酒屋に、前記の四名とオプザーパーとして同じ四十三年土木科卒の篠原和行(苦小牧出身)が集まり、本原稿作成の思い出を語り合いながら忘年会を開き大いに盛り上がりました。

青雲寮は二階建て造りで部屋が十五室と舎監室・管理人室があり、総勢五十八名が生活していました。舎監は電気科の渡辺国雄先生(ニックネームは「がまき」、管理人は島貫さんでした。管理人の島貫さんには、女子校に通う同世代の(まさ子さん)がおり、寮生の羨

望の的でちよつかいを出していた人がいた様に思います。寮生の部屋(四人部屋)は、ドアを開けると左右に備え付けの二段ベッド、その先は左右の壁に向かった備え付けの机と本棚(二人用)があった。この真ん中に達磨ストーブ(石炭)が備え付けられていました。寮生の部屋割りは先輩二名と後輩二名の組み合わせが基本で、先輩からはしっかりと、「挨拶」態度「言葉使い」「部屋の出入り」「勉強」、そして「掃除」をする様に指導されました。

特に一年の寮生活で印象深いのは、「挨拶」態度・部屋の出入り・等」が良く出来ていない等、「態度が悪い」との理由で先輩から目を付けられた人(一年生)は、教育的な指導が行われました。この指導は殆どが週末の消灯後(十時)に行われる事から、週末になると皆ビクビクし、ベッドでは何時呼び出されるも良い様にズボンをはいて待っている人もいたものです。

この教育的な指導(俗に言う、焼き入れ)が行われた部屋は、管理人室から一番離れた二階奥の九号室でした。この部屋には先輩方が数人詰めており(その部屋の一年生は、他の部屋に退避させられました)、週末の夜十時を過ぎた頃、「態度が悪い」人達を中心(基本的には一年生全員)に、教育的な指導と言われる「焼き入れ」が行われます

た。私たちが二年生なった時は、週末にビクビクしていた思い(焼き入れ)は、後輩に味あわせまいと二年生の総意で止める事になりました。しかし、その後後輩たちにどのように引き継がれたかは不明です。今になってみれば、この教育的な指導で挨拶・部屋の出入り等の基本を叩き込まれた事がある、後の「就職試験の面接や社会生活の基本である」、人との接し方については、少なからず役立つ様に思います。

各先輩方は互いに競争意識を持ちしっかりと勉強しており、殆どがクラスのトップクラスの成績であった様に思います。一年生も先輩方の後姿を見て、自然と勉強をする意識が育った事で、成績の向上につながったと思います。



昭和42年

寮生仲間の就職先の殆どが、東京・神奈川等の大手企業に就職でき、近年の就職難と非正規雇用社会化の流れからは考えられない程恵まれた時代(高

青雲寮(昭和42年)



43年卒の寮仲間(筆者は後列右から2人目)

特許・実用新案・意匠・商標・内外国出願・調査・鑑定・審判・訴訟

守谷内外特許事務所 MORIYA AND COMPANY

弁理士 守谷 一雄 (電通 昭和36年)

〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町1-13-4 第1テイケイビル 3F
Tel:050-3387-1450 Fax:03-5614-7010
E-mail:moriyapatent@space.ocn.ne.jp
http://www.benrishi-k.gr.jp/members/english/moriya-k.htm

度成長)をがむしゃらに駆け抜け、いまや六十五才を超え「老人の仲間入り」となりました。これからは孫の成長を眺めながら健康に注意し、苦工同窓生や地域社会との交流を深める様な活動を行っていきたいと思います。寮で同じ釜の飯を食った仲間の絆は強く、毎年、忘年会を開き酒を酌み交わしながら昔話や現況の話題に花を咲かせています。今後とも、息の長いつきあいを続けていきたいと思っています。

苦工同期会便り

昭和三十九年電気科卒同期会

「三九会」開催

吉田 秀夫 (電気39回)

七月七日、のぼりべつ第一滝本館にて卒業五〇周年を記念した同期会を道内二七名、関東六名の参加を得て、開催されました。札幌幹事団の長南さんの開会宣言・乾杯に続き、東京代表の中本さんの開会挨拶の下、盛大に開催されました。



後列左から: 芦野 佐藤 中本 森崎 道原 加藤 小林 布施 松永 2列目: 長瀬 今野 吉本 馬淵 浜谷 伊藤 若松 須貝 長南
3列目: 石黒 中村(昭) 吉田 林田 細井 佐々木 水尾 前列: 中村(猛) 中村(昇) 藤原 棟方 工藤 鎌田 小沢 長沼

卒業以来、半世紀振りに再会した方もおり何となく面影は・・・さして誰だったかなと周りの者に聞く始末、そう言えば目元のかすかな面影で納得・・・。人生もかれこれ七〇年ともなると皆さん大なり小なり病歴があるもの、こうして元気に会えることは何よりとお互い肩を叩き再会を喜び合いました。

学生時代には其々の事情により自宅、自動車通、寮、下宿等、様々な形で通学していましたが、当時の記憶をたどり苦難や喜びを思い起こして、懐かしく大いに話が弾みました。

卒業してからは、会社勤めの方、起業された方、其々ご苦労して掴んだ今の暮らしや趣味・お孫さんの話など、皆さんが充実した生活を送っている様子で何よりでした。

別室で二次会を行い、次回は五年後の開催を約束して夜十一時頃に惜しみながら散会となりました。

今回の会を計画頂きました苦小牧幹事の小林さん、札幌幹事団の芦野さん、菊池さん金野さん、長南さん、中村(猛)さん、中村(昇)さん、松永さん、棟方さん、お忙しい所準備頂き大変有難うございました。

昭和四十五年卒 機械科クラス会開催

佐々木 明 (機械45回)

御嶽山噴火の記憶も生々しい十月五日、(株)日立ビルシステム伊豆高原保養所にてクラス会を開催しました。

北海道から地蔵さん、新見さんをお迎えして、関東在住六名と特別参加の金本さん(電子)の九名でしたが、仕事の都合で富樫さんと馬場さんは残念ながら欠席でした。



後列左から: 佐々木 明・横井 恒人・地蔵 肇・斉藤 幸敏・金本 力夫
前列左から: 新見 敏郎・野尻 良一・福澤 光男・菅原 雅和

代で入ってパーテンドーをやってもらい、昔話に夢中になる者、カラオケで歌う者、男同志で踊る者など楽しい時間は日付が変わる頃まで続きました。

会計の時に「随分飲まれましたね」と半ばあきれた口調で言われて、少し恥ずかしいと思いと、還暦過ぎでまだこんなに飲めるんだという思いをしました。

翌日は不安が的中、台風直撃で列車・飛行機が運行中止になっており、北海道組の今日中の帰宅が危ぶまれる事態となりましたが、十一時過ぎに新幹線が動いたとの情報に急遽タクシーで札幌駅に移動、来た新幹線に飛び乗って帰って来ました。最終的には北海道組も夕方には帰宅出来たとの連絡を貰い、クラス会が無事終了しました。

全体のクラス会は「皆がリタイアする二年後にやる」と幹事新見さんが宣言してくれました。関東在住者は次の関東六華会総会での再会を約束して解散しました。後日参加者から「楽しかったよ、ありがとう」と連絡あり、北海道組からは「台風直撃は滅多に経験出来る事ではなく、台風の目の中に居たのは初めての経験だったよ」と感想を言ってくれました。

楽しかった当日と、台風のせいで大変思い出深いクラス会でした。

●三六年卒電気科クラス会開催

(七月三日)

札幌薄野にて二四名(関東五名)、五三年振りの再会でした。翌日は五名で苦工旧校舍跡と新校舎などを見学して来ました。

●四三年卒電気科クラス会開催

(七月六日)

札幌薄野にて北海道組と合同(関東六名)で開催し、翌日九名でゴルフコンペを楽しんで来ました。来年は関東で開催予定。



S43年卒電気科クラス会



S43年卒土木科クラス会

●四三年卒土木科クラス会開催

(十月十八日)

苫小牧にて十五名(Aクラス)で開催。

●三八年卒電気科クラス会開催

(十一月十二日)

東京丸の内にて十名(北海道二名) 皇居での「旭日双光章」授章式出席のため上京した名越晴男さんに合わせて開催しました。

●三八年卒電通科クラス会開催

(十一月二八日)

千葉九十九里の温泉にて古希祝いを兼ねて六名で開催、翌日は養老溪谷の紅葉など周辺を観光して来ました。

(写真は八頁一段目に掲載)

新役員自己紹介

この度、伊東隼次氏の後任として監査役を引き受けて頂きました伊藤捷憲氏に原稿をお願いしました。

伊藤 捷 憲

監査役、電気38回
七十才



私が苦工高へ入学した一九六〇年頃、国鉄はSLからディーゼル、そして電化への変革期でした。通学は夕張線の川端駅からSLに乗る。一時間半程を要しました。一学年の二学期からは、体力方面でも非力な

ことを心配した母親は比較的通学に負担のない室蘭線の登別駅へ至近距離にある親戚の家へ下宿して通学する様に取り計らってくれました。三年間、SL列車での通学で卒業までを過しました。行き帰り乗り込む列車のボックスは何時も決まって同じ車両で同じ位置のボックスシートで指定席の様でした。

日の出が遅い冬休み前後の時期に列車は虎杖浜から白老付近を通過します。太平洋から太陽が昇る光景は半世紀も前の事ながら今も目に焼付いています。白老を過ぎ苫小牧迄は海岸線とは反対側に見える樽前山を眺めて通学していました。

卒業後は外資系の事務機器関係の会社に就職、初任地として札幌営業所に配属されましたが翌年には東京へ転勤になり、それ以来、西多摩地区の立川市と都内各営業所での勤務をして、秋葉原営業所で還暦を迎え退職となりました。

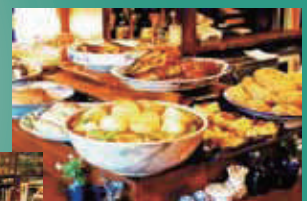
思い返すと上京した一九六四年一〇月一〇日は東京オリンピックが開催され、池袋にある喫茶店に設置された大型カラーテレビで開会式の様子を観ることができました。カラーテレビ放送の初期で国立競技場の開会式を映すテレビ画面が特に印象深いです。

二十歳で東京オリンピックが開催され半世紀後、技術革新と社会基盤の整備が進み、今となつては未舗装道路、冷暖房の無い交通機関・公共施設も減多になく、どこでも冷暖房完備で過し易い環境が整ったものです。

現役時代を夢中で駆け抜けて六十歳で退職し、十年が過ぎましたが、気が付くと取り巻く周囲の環境変化に戸惑うばかりです。

日々異なる20種類以上のおばんざい大皿料理をご用意！大人の隠れ家！

ふるさとの味 蛸 (ほたる)



〒103-0014
東京都中央区日本橋蠣殻町2-5-4
パークハイツ日本橋蠣殻町2F
地鉄半蔵門線水天宮前 5番出口から1分
TEL: 03-5652-5988

定休日: 日曜日 / 連休になる祭日
営業時間: 昼 11:00~14:00 夜 17:00~23:30

編集後記

「寮生活の思い出」では、昔からのしきたりが善きにつけ悪しきにつけ、永く脈々と受け継がれてきたものだと考えさせられました。先輩方の教育的な指導で社会生活に役に立ったはずとあるが、小生も少なからず同じく感じるころがあるのは年齢のせいなのでしょう。 「クラス会の便り」が七件ありました。紙面の都合で二件のみの紹介になりました。次号からは、もう少し紙面を割ければと思います。

最後になりますが、昨年十一月に電気昭和三六年卒の名越晴男さんが苦小牧市議・議長を永年勤められ「旭日双光章」を受章されました。

おめでとうございます。

【編集委員】

馬淵、井齋、櫻井、瀬谷



S38年卒電通科クラス会

苦工同窓生の各方面で
ご活躍の方を紹介

高校時代は担任泣かせの暴れん坊だった男が、社会の荒波に立ち向かい様々な職業で苦勞を重ね、本人曰く「これだ！これこそ自分が人生を賭けられる仕事だ」と起業わずか十年余で保有車輛九〇台、社員六〇人の運送会社を築き上げた異色の同窓生、日高広秋さんをご紹介します。尚、今号より会報の広告スポンサーを引き受けてくれましたことを併せてご報告いたします。

株式会社 国際低温流通

代表取締役

日高広秋 (機械昭和五九年卒)

日高さんは昭和五九年三月苦工機械科を卒業後、平成十二年二月に株式会社国際低温流通を設立し、「品質改善・社員教育の徹底・関連設備の充実」に注力、「安全・安心・信頼」を経営理念とし、お客様の視点に立った会社経営に努力され、現在では、保有車輛九〇台、社員総数六〇余名を抱え、大手食品会社を始め、多くの流通会社を取引先とした運送会社を運営しています。



日高社長、杉本取締役 (電子S63)

管理者&ドライバーを募集しています。

お気軽に本社営業所(044-277-5751)にお電話ください。

Refrigeration transport & Marine container transportation



KTR 株式会社 国際低温流通

基本理念

社会と社会を結ぶ重要な役割を担っている物流業者としての自覚を新たに、現場に対する徹底した教育により質の高いサービスを提供し、お客様とともに繁栄すること



保有車輛群

冷凍トレーラー



同窓生の皆さん 管理者&ドライバーを募集しています。お気軽にお問合せください。電話：044-277-5751

株式会社 国際低温流通 (設立:平成12年2月1日)
代表取締役 日高広秋 (S59 機械科卒)
〒210-0869 川崎市川崎区東扇島7番地
TEL: 044-277-5751 FAX: 044-266-8228

営業所: 本社・横浜・千葉
一般貨物自動車運送事業: 関自振第 662 号
ISO 9001 認証取得

保有車輛: 大型冷凍車他 90 台
社員総数: 60 名
取引先: 大手食品会社他多数